

## 第6回岡谷小学校のあり方検討委員会「現地存続分科会」会議録(要旨)

平成25年11月29日(金)

岡谷市保健センター

### 【委員】

- ・これまでの会議の内容を踏まえて、まずはざっくりばらんに委員さんのご意見をお聞きしたい。

### 【委員】

- ・岡谷小学校ほど自然環境が良い学校は他にはない。市の中心市街地に住む子どもたちが自然環境豊かな学校に通うことが素晴らしいこと。ただ単に学校をひとつ無くすということではない。
- ・市は児童数が減少しているから、学校を減らしたいと考えている。学校を減らしたいから、地盤状況が悪いと言って岡谷小学校を無くそうとしている。

### 【委員】

- ・市は最初から現地存続はないと言っていた。結論が決まっているのに、検討委員会で何を検討するのか。
- ・市の話の出し方に問題があったと思う。みんなそう思っている。不信感がある。

### 【委員】

- ・マスコミ報道が先行していた。噂が一人歩きしていた。
- ・現実的に危険度の度合いが知りたい。

### 【委員】

- ・危険度を予測することは難しい。内陸部で地震が起こる確率は、一般住宅が火事にあう確率と同じくらい。ただし、個別のことは分からないとしか言えない。

### 【委員】

- ・岡谷小は安全が担保されていない。今すぐ危険でなくても、いつ地震が来るか分からない状況にあっては、対応すべき。

### 【委員】

- ・市は現地での存続はしないと言っているが、現地存続について他の案と同様に公平に議論すべき。もっと現地存続についてしっかりと検討すべきである。

### 【委員】

- ・北校舎側の切り土部分を使って学校を運営することは可能か。

### 【委員】

- ・100パーセントの安全は担保できない。

### 【事務局】

- ・北側だけでは学校敷地全体として、校舎の配置ができない。

### 【委員】

・裏山が崩れる恐れもある。

【委員】

・上の原小や神明小も、山が崩れる危険があるのではないか。

【事務局】

・上の原小は、階段状に上手に傾斜地形を利用して建てられている。地盤的な問題は考えていない。周辺の自然環境に対する対策は取っている。

・神明小は北側の一部に急傾斜地がかかっているが、背負っている山が低いため、全体的な影響は少ない。

【委員】

・岡谷小も同じではないか。

【事務局】

・岡谷小は他の学校と比べて、厳しい条件が重なっている。

【委員】

・市は危険だ、危険だと煽り過ぎている。どのくらい危険なのか説明すべき。どのような時に、どのような危険があるかを説明してほしい。例えば、30年現地で存続した場合に、災害が発生する確率は何パーセントなのか聞きたい。

・地震が起きたらどのような被害が想定されるのか、大雨によってどのような被害が想定されるのか。

・PTAが実施したアンケート調査で、「ある程度の危険を伴っても現地存続を望むか」との質問に約70%が望むと答えている。ある程度の危険はしょうがない。完全に安全な場所はどこにもない。

【委員】

・「ある程度の危険を伴っても現地存続を望む」という話があったが、本当に自分の子どもに危険がある学校に通いなさい、と言えるのか。

【委員】

・現にPTAにそういう意見がある。

【委員】

・危険は避けた方がいい。

【委員】

・140年間何も無かったから、今後も何もないとは絶対に言えない。

【委員】

・では、今後災害が起きる確率はどのくらいか。

【委員】

・数字で示すことは難しい。どのような被害が発生するかは、誰にも分からない。どんな専門家でも評価できない。

【委員】

- ・それでは現地存続で何を話し合うのか。

【委員】

- ・現地存続には、約30億円かかると言っているが、危険度を1%でも下げるといような対策はできないものか。例えば5億円くらいでできる対策を行うということはできないのか。

【委員】

- ・地盤改良に補助金は出るのか。

【事務局】

- ・国の学校施設の耐震化工事で、地盤改良に対する補助金は出ない。

【委員】

- ・本当に危険なら、今すぐ現地は通わせないのが筋ではないか。危険だと言いながらH27度までは通学可能としているので、現地でも大丈夫なのではとってしまう。

【委員】

- ・PTAアンケート調査で、現地存続希望が36パーセント、移転希望が38パーセントある。つまり4人に3人は岡谷小に通いたいと思っている。
- ・通学距離を考えても、川岸小まで約3キロを小学生が徒歩で通うには遠い。
- ・危険は避ければ良いので、地盤改良工事をすれば良い。今国道が工事しており、13メートルの高さでほぼ直角の擁壁ができています。その上に道路ができて大型トラックが通る。このことを考えに入れてもらいたい。
- ・いくらお金をかけてでも地盤改良をするべき。防災道路も作ってもらいたい。30億かけても安い。30年経てば、年1億の計算。

【委員】

- ・岡谷市の財政について勉強が必要だと思う。次回の宿題にしたい。岡谷市の財布から出るのか。

【委員】

- ・地盤改良費用の見積もりを取りましょうか。

【事務局】

(全体会での報告事項を確認)

- ・現地存続の優位性（自然環境の良さ等）があるが、課題（費用がどれくらいかかるか、危険度の明確化必要）も多い。
- ・現地存続について再考する。市の案（現地存続しない）に対してもう少し議論が必要。
- ・各校建設時の地質調査の資料残っているか確認する。

## 第6回岡谷小学校のあり方検討委員会「移転分科会」会議録(要旨)

平成25年11月29日(金)

岡谷市保健センター

### 【委員】

- ・第1回目なので、まずはざっくばらんにお一人ずつ思っていることをお聞きしたい。

### 【委員】

- ・移転先希望としては、イルフ北側駐車場が良いと思っている。旧山一事務所は敷地内に残したままで。駐車場全部が市有地ではなく面積が狭いので、校舎は上に伸ばせばいいのではないかと素人的には思う。
- ・ララ岡谷の空いている部分の活用もあるのではないかと、校庭は駅南を利用して。

### 【事務局】

- ・1Fは商売で利用されており、全て市の所有ではない。

### 【委員】

- ・(市所有以外の)個人への補償が必要になる。
- ・一番重要なのは子ども。ララ岡谷だと、間下区の子供が通えない。それなら近くの違う学校へ行くという話になる。

### 【委員】

- ・そのとおり。

### 【事務局】

- ・ララ岡谷の建物自体も老朽しており、かつて取壊しの話もあった。

### 【事務局】

- ・25年経過している。元々デパートとして作られたため、柱や構造が違う。また、2Fには一切窓がないので、窓を開けるとなると、建物の強度的に難がある。

### 【委員】

- ・転用がまるっきりできないわけではない。イルフプラザのように、真ん中を空けて、中庭形式にできないこともない。ただし、構造の補強等は出てくる。

### 【委員】

- ・子どもたちの学校としての環境がそれでいいのか。体育館もプールもない。その辺りもクリアしないと。子どもにとって何が重要なのかを考えるべきではないか。

### 【委員】

- ・安全でいい場所を示さないと、この分科会の存在価値はない。

### 【委員】

- ・移転の話とは少し違うが、今の岡谷小の魅力は自然環境にあるので、移転する時点で岡谷小の魅力は半分以下になる。

### 【委員】

- ・移転のメリットは、子どもたちが新しい学校で勉強できることや、岡谷小が残っていくことがある。デメリットは、建てるまでに時間がかかり、一旦は分散しなければいけないことがある。

【委員】

- ・今の岡谷小ほどの自然環境がある場所を探すのは無理だと思う。
- ・自然と命のどちらが大事か。どうして怖い所に学校があるのか。

【委員】

- ・そういうこと。

【委員】

- ・市の説明を聞いても、絶対という場所がない。
- ・PTA アンケートで、ある程度危険を承知で現地にといい声があるが、危険性については誰も何とも言えないので難しい。

【委員】

- ・命をどのように守るのかという視点に立つことが必要。PTA は学校を残せと言うが、自分の子どもが卒業すれば岡谷小とは関わりがなくなる。これからの子どもの安全安心をどのようにしていくかが、現 PTA の役割だと思う。ただ、残す残さないではない。

【委員】

- ・岡谷小の子どもたちは非常に良い。他の学校と比べて勝るとも劣らない。それはなぜかと言うと、先生達が熱心なこと、地域が礼儀正しく良いこと、位置関係（広さや場所）が良いことがある。体育でアスレチックをやっている。あのような空間は、移転したら手に入らない。自然環境も良く、イルフ駐車場や駅南では手に入らない。他にも美術の関係で、岡谷小には登り釜があり焼き物ができる。そのような学校は他には無い。体力がつく、理科学習ができる、芸術ができる。このようなことは全て、周りの広さや環境によるもの。
- ・また家から近いということも必要になる。自分が移転分科会に入ったのは、どこか良い場所がないかと思ったから。しかしよく考えてみると、イルフ駐車場は狭く、体力がつくアスレチックもできないし、とんぼも飛んでいない自然環境。ましてや登り窯も作れない。
- ・駅南は、広さ、体力アップ、理科学習、登り窯などの環境面でも、通学距離でも課題は残る。
- ・どこか良い場所があればと思いいこの分科会に来たが、よく考えてみるとちょっとなあとと思う。かと言って、都会には屋上に校庭がある学校やプールが屋内にある学校もあるが、そこまでして小学生をそのようなところに入れて良いのか。もし長野県にそのような学校を作れば笑われてしまいますね。

【委員】

- ・岡谷小下のヨゼフ保育園近くに自宅がある。20 年前から、あの山が崩れてきたらどうな

るかと考えることがあった。

- ・自然の力は恐ろしく、全てを科学技術で乗り越えることはできない。
- ・ラウ岡谷はプールも校庭もない。イルフ駐車場は狭い。
- ・今後本格的に少子化を見据えた学校を作るのか、それとも暫定的に中間点に学校を求めるのか。
- ・自分は中央小を卒業した。中央小にあった物は神明小に移った。中央小は無くなったが、記憶に残っている。
- ・現地が公園とかで残せれば、自然を学ぶ授業でスクールバスで現地に行くとかすれば、岡谷小の自然の良さは残ると思う。現地にいなければ自然を享受できないということではないと思う。

【委員】

- ・自分もそう思う。現地を学校林として残したり、あかしあ釜を残したりすればいいと思う。
- ・避難場所にもなっている。

【委員】

- ・事実が分かった以上、未来の子どもたちへの大人の責任として判断すべきだと思う。
- ・現地を地盤改良すれば、セメントの加重が乗ってもっと滑りやすくなると思う。下は水が出ていることもある。地盤改良することで、違う災害を生む危険がある。自然の力を抑えることはできない。自然との調和が大事。

【委員】

- ・市にも沢山お金があるわけではない。

【委員】

- ・現地存続は難しい。

【委員】

- ・今の岡谷小の良さを引き継げる跡地利用が考えられればいい。

【委員】

- ・岡谷小はこれまで140年続いてきたが、危険な所から移るという判断をしたということも今後の岡谷小の大きな伝統になるのではないか。

【委員】

- ・あかしあ釜など良いものは残すが、学校本体は移す。伝統が受け継がれていけば、むしろ特色が残るのではないか。

【委員】

- ・将来的な少子化を見据え、暫定的にどこか市の既存施設を利用することはできないかとも思う。

【委員】

- ・残したいという気持ちはわかるが、子どもが犠牲になってはいけない。

- ・残せるなら残したいが、リスクが高すぎる。

【委員】

- ・なぜ移転の分科会ができたかという、移転する場所があれば岡谷小は残るという前提で話が来ているので、移転場所が無いとすればどうするかという話をする。現地存続が良いのか、分散が良いのか。

【委員】

- ・今の環境が無ければ岡谷小では無くなる気がする。

【委員】

- ・自然環境がよい現地の跡地利用について、十分な検討が望ましいということが今日出た方向性の一つだと思う。
- ・跡地利用の話をする、怒られるかもしれないが。

【委員】

- ・この分科会は移転が前提なので、それは問題ない。

【事務局】

- ・この分科会で、跡地利用について考えていただきたいと思っている。

【委員】

- ・今日は結論出ずというところですかね。

【事務局】

- ・次回は移転先のメリットデメリットをみんなで考えて、結論的にどうかという所まで突っ込んで話ができれば。

【委員】

- ・では次回は、移転先のメリットデメリットを検討して、方向性を出していくようにしたい。

【事務局】

(全体会での報告事項の確認。)

【委員】

- ・今の岡谷小は、自然環境、体力面、理科学習、芸術等でとても魅力ある場所なので、移転するしないに関わらず、宝として活用を図っていくことも合わせて考えていければと思う。
- ・今日は1回目なので、この辺りでしょうか。
- ・次回までに欲しい資料はありますか。

【委員】

- ・平成32年以降の児童数の推定はできるか。

【事務局】

- ・どこかの研究所が岡谷市の30年先だか50年先の人口は38,000人というような統計を出してそれが記事になっていた。公表されているものなので、探してお出ししたいと思う。

**【委員】**

・イルフ北側駐車場のどの辺りが市有地部分で、どの辺りが民有地部分なのかが分かる資料があれば。

**【事務局】**

・了解した。

**【委員】**

・以上で本日の分科会は終了します。

## 第6回岡谷小学校のあり方検討委員会「統合・分散分科会」会議録(要旨)

平成25年11月29日(金)

岡谷市保健センター

### 【委員】

まずは、最初にいろいろと意見を出していただいて、それについて解決策等を練っていく。学校の統合と分散という言葉の使い分けについて、事務局から説明をお願いしたい。

### 【事務局】

統合については、ふたつの学校があったとしたら、ひとつにして新しい学校をつくること。ただ、今回岡谷小の学区等を考え、また最寄りの小学校等を見据えると、必ずしも、児童全員がひとつの統合校に行くということよりも、ある一定の地域の方々は最寄りの学校を選択しつつ、岡谷小の歴史・文化・伝統といったものを継承する小学校を1校決めていく。そういったことも今回の統合という部分では考えてもいいのではないかと。

### 【委員】

岡谷でも統合した経緯はある。この市役所の位置に昔、中央小という学校があった。それが今井小と一緒にあって、新しい場所に神明小ができた。中央小も今井小も、統合前の前年は神明小の今井部校、中央部校という形で呼ばれていた。そういう経緯がある。だが、その時中央小にいた子どもたちが全員神明小に行ったかということ、そうではなく、間下区は神明小、新屋敷区は岡谷小、上浜区は田中小へ行くことになった。これが今井小と中央小の統合で、神明小がつけられた。

### 【委員】

そういう話を聞いていると、統合というのはある程度計画的に、学校を整理しなくてはいけなくなったということ。

### 【委員】

ちなみに当時は、小井川小と田中小と岡谷小はあったか。

### 【委員】

田小も小井川小も岡谷小もあった。

### 【委員】

分散というと、ある程度近い学校を選択することになると思うが、受け入れる側がその人数を受け入れられるかどうかの課題はあるが、そのあたりは考慮せず、フリーに考えていただいて結構。

### 【委員】

基本的には、受け入れる側の学校において、その子どもたちを受け入れるだけの教室が不足すれば、当然それをつくって迎え入れればよい。そのためには時間が必要。

### 【委員】

受け入れられる教室数がこれだけだから、というようなことに拘らなくていいということ

とか。結果として必要なら整備をするということで。

【委員】

そういうことになると思う。

【委員】

第1回から5回までは、現地存続の案でいろいろな話をしてきたが、それについても考えがあると思うので、あわせてどうぞ。

【委員】

個人的な意見だが、現地存続に関しては、私の判断で良い悪いは判断できない。なぜかという、地質などに対する知識もないし、発言にも責任がもてない。仮に現地存続となって万が一のことがあったら誰が責任をとるかといえば、おそらく誰も責任を負えない。そういった意味でも、私の意見としては、現地存続は厳しいのかなと思う。再三言っているが、専門家の先生が駄目というなら駄目だと思う。

統合分散での私の考えは、いろいろな形があると思うが、実際問題ふたつの学校をひとつの学校にすると、必ずどこかの区は遠くなるので、ふたつの学校をひとつにするという選択肢はないと思う。分散であれば、新屋敷区は田中小、間下区は神明小、岡谷区は川岸小とか。移転案にもなってしまうが、移転候補地としては狭小だが、中央小と今井小のパターンみたいに田中小と合併して駅南に新築するとか。移転の分科会で検討してもらえると思うが。新たな場所に移転をしながら統合するというのいいのではないか。統合するとなった時点で、どこかに新設しないと無理ではないか。やはり、どこかと統合してどこかに新設がいい。

【委員】

分散となると、区ごとの分散がいいのか。それとも拘る必要はないのか。

【委員】

拘る必要はないと思う。正直言って、どこへ行っても遠い。現在の8校の配置は、いい位置に配置されていてバランスが取れている。今バランスが取れているがゆえに、単純にひとつ（岡谷小）がなくなるとバランスが悪くなってしまう。バランスを保つとすれば、中央町とか駅南はいい場所だと思う。

駅南は、隣に老人福祉施設ができる予定で、児童と高齢者が共存するというの新しいモデルとしていい環境になるのではないかと思う。

【委員】

学校本体は別としても、車が入れる道が1本。冬になって雪が降ると、先生たちは坂の下に車を停めて歩いて学校へ行っている。また、聞くところによると、給食食材の業者も雪が降ると坂を登れなくて、先生たちや業者が歩いて運搬しているらしい。例えば雪が積もった日に万が一のことがあった場合に、緊急車両が登って行かないのでは困る。普通車がすれ違うだけでも大変で、登校坂も山の斜面を削って道にただけで、子どもの安全を思うと現在の状況だと危険だという判断をしている。

その他の話を聞いてみると、あり方検討委員会の内容がなかなか見えてこない、自分の子どもは一体どここの学校へ行くことになるのか心配している。あと、自分の好きな学校に行かれるのかという心配をされている方がいるので、同時に考えなくてはいけない。

【委員】

立正閣通りの勾配はどれくらいか。

【事務局】

計測する必要がある。

【委員】

現地存続も移転も、お金をかければできると思っている。ただ、市の方でお金をかけたくないということであれば、統合分散しかないと思う。しかし、統合分散するにしてもそんなに簡単にできるのかなという心配をしている。というのは、一番お金がかからないということで統合分散でしょうけど、例えば、今岡谷小が1クラス何人かわからないが、他の学校に移ったときに、その教育環境、1クラスの人数をしっかりと確保できるのか、あと、今の場所は危険だから安全を第一にということであれば、通学路の安全は本当に確保できるのかとか、統合分散をするにしてもそんな簡単にはいかないと思っている。そのあたりについて考えていきたい。

【委員】

確かに通学路というのは、大きな道路を渡るなどの危険もあるが、土砂法に指定されている部分を横切る、他の小学校でもそういうところがあるが、そういったところをいかに安全に通学させるかが重要なポイントになる。今現在でも安全の確保はしなくてはならないし、課題はある。

【委員】

駅南に、岡谷小と田中小を統合し移転させるという話があったが、田中小の学区の人たちの理解も必要。駅南でも中央町でも神明小に近いところはどう選択するかなど、様々な問題はある。

現地存続については、もし仮に現地に存続させるとなれば、校舎全部を取り壊しての工事になるので、これから7年の間、子どもたちは便宜的にどこかに分散をして、また7年後戻るとすれば、もうすでに子どもたちの世界ができていて、今保護者が心配しているようなことと同じような心配を、またしなくてはいけない。

【委員】

岡谷小があれだけの危険な場所だということがわかっていて、そこに子どもを置くことはできない。子どもを危険な場所には置けない、これが大前提になってくる。

この大前提から考えたときに、1対1の完全な統合は敷地の面からも無理、そうすると中央小がかつて統合という形をとったような核となる学校があり、そこで歴史や伝統を引き継いでいく。大事に考えなくてはならないのは、どういう形になろうと、学校が移るにあたっては、子どもにかかる部分はしっかりと対応する。そして、希望を持てる学校づく

りをしなくてはいけない。「分散させられた」ではなく、希望を持って新しい学校へ行けるように。

【委員】

中央小と中部中は一緒にこのあたり（現市役所）にあったのか。

【委員】

竜上高校も一緒にこの地にあった。富士見南中が富士見高原中と統合をしているが、これは、富士見高原中の場所へ南中がまるまる移ってきた。

【委員】

現地存続については、安全という面で考えたときには、やはり現地に存続することは厳しいと思う。ただ、お金をかければ地盤の補強等はできるかもしれないが、だからといって100%安全という断定はできない。そういう不安定な要素を抱えているとしたら、あえてそこに建て直すということは心配が残る。

それから、移転という問題があるが、移転先の面積等を考えるときに、岡谷小が入る面積がない、それから、統合して移転というお考えもあったが、さらに規模が大きくなるので基本的に新しい敷地には収まらないのではないかと。そういうことを考えると、統合分散というのが、ベストではないがベターな選択だと思う。それは、財源的にも安く済むかもしれないが、期間的なことを考えても、ある程度短期間で移れるという要素もある。それからもうひとつ。

やはり将来のことを考えたときに、この少子化の中で、子どもの数は激減していく。県の調査では、岡谷市における今年度の人口を「1.00」としたときに、2020年に「0.85」、2030年「0.67」、さらに行くと（2040年）「0.61」ということで、約6割になってしまうというデータがある。そうすると、現在270人だけでも、2020年には230人くらい、2030年、2040年には180人、そうすると単純計算すると、6学年で180人なので、1学年30人。現在35人規模学級なので、完全に単級（1学年1クラス）となる。そうすると、教員の定数というのはすべて学級数で算定される。1学級減ると担任1人が減るのは事実で、さらに専科の関係、今岡谷小には音楽と家庭科を持っている専科が1名入っているが、もしかするとその専科が「0」になってしまう可能性がある。それから臨任の教員がいるが、これも学級数で算定されるので、学校規模が小さくなれば現在3人くらい講師がいると思うが、これが「1」ないし「0」になる可能性もある。そう考えると、学校の規模が小さくなればなるほど、サービス面では低下する。そのように考えたときに、本当に岡谷小を現地に存続していくことが、子どもたちあるいは学校のためになるのか、と考えるとやはり「クエスチョンマーク」がつく。いずれは岡谷市も少子化という状況の中では、統廃合せざるを得ない状況が生まれるであろう。そういう面では、どこで統合するかは別にして、新しい統合の形をモデル的なプランとして新しい学校をつくる、ハード面ではなく、ソフト面で新しい学校をつくるのが大事になってくると思う。だから伝統と言うものはもちろん大事にしなくてはならないが、

しかし伝統にあまりにも囚われすぎているのではなくて、これだけ激しい時代の変化の中にあるのだから、新しい時代にふさわしい、特色ある学校づくりや夢のある学校づくり、そのようなソフト面を大事にした学校をつくっていく時代ではないか。そういう意味では統合という形で新しい学校をつくるということ、これは大事なことではないか。それが将来の岡谷市のモデルになる、そんな学校をつくれればこれは、保護者も地域の住民も理解していただけるのではないか。どういう学校をつくるかということこれから真剣に考えていかなければいけない。

#### 【委員】

人口が、2000年から15%減。平成元年の岡谷市の人口60,000人超、現在の岡谷市の人口52,000人。人口が右下がりのときに学校をどうするかと考えると、行政とすると合理的にすべきということになる。いろいろな意見があって、お金をかけてでも新しく学校をつくった方がいいとか現地に残った方がいいとか、行政とすると学校だけではないので合理的＝経済的に、お金のかからない方法がないかとまず考える。8校を7校にする統廃合という形で考えることがベターだと思う。現地での学校存続はいろいろな規制、つまり土砂法や急傾斜地法による指定があって、今すぐ危険という話ではないが、将来に渡って安全を確保するという話になると現地存続はいかなものかという意見。考え方の方向とすると「統廃合」という考えで間違っていないと思う。3案を横並びにして、どれが一番市として、また住民にとってよいか検討すればよろしいと思う。

#### 【委員】

人口60,000人から50,000人に減ったが、これから先また減っていくのかと思う。岡谷区は岡谷市の中心であり、駅もあってマンションもある。まちの中心地区の最寄りに小学校がないというまちづくりが、人口減に拍車をかけるのではないか。中心市街地から歩いて通える学校がないというのは岡谷市のまちづくりといった観点から考えたときに、岡谷市の方針と合致するのか心配。

#### 【委員】

岡谷市は、諏訪、茅野と比較しても、15歳以下の割合が少ない。岡谷で子どもを育てたくなるようなまちづくりをしなければいけない。つまり、岡谷で教育をさせたいまちづくり。特色ある学校づくりをそれぞれの学校がしっかりと進めて、その特色を出していく中で、岡谷へ行って子育てをしたいなと思ってもらえることが、教育ができる人口増のための部分だと思う。

#### 【事務局】

子育てに充実したまちづくりというのもひとつのまちづくり。一番は、岡谷市は工業立市であって、産業の振興が一番人口増につながる。なにがと言えれば雇用。事業所数の変化を見ると岡谷市というのは、大きな事業所もあったがこれらが転出し、小さい事業所の数も減っている。工業立市の状況は世の中の景気に大きく左右されることから、そういう意味で雇用が減ったり、産業が衰退すれば人口は減ってしまう。それに伴って人は雇用を求

めて出て行ってしまふ。それが一番大きな要因。あと傾向から言えば、出生率や自然減、そういったものとのバランスがとれなくなってきていて、人口そのものが減ってきているが、これは岡谷市に限ったことではない。

【委員】

今後のまちづくりをどう考えているのか。人口が減っていくのを仕方がないとするのか、それとも子育てをしやすいまちということで特色を出しながらやっていくか。何をやっても減っていくとは思いますが、ただ、何もやらないで減っていくのと、いろいろ努力をしながら減っていくのでは全然違うと思う。

【委員】

次回に繋げるような、具体的な資料請求ありますか。中学校の学区とあっていた方がいいかわからないが、次回に、市としての案を示してもらってよろしいか。

【委員】

岡谷市に小学校が7つになるということなので、市内にバランスよく配置してみてもいいのではないと思う。学区自体の見直しも視野に入れておく必要があるのでは。

【委員】

小井川小はどこの中学へ行くか。

【事務局】

北部中と東部中。

【委員】

3つに分かれるのは岡谷小だけ。

【委員】

今、岡谷市では学区外通学は認めているか。

【事務局】

認めている。

【委員】

個人的な事情があつての許可ということだが、今回のように統廃合に絡んで学区外就学を申請があつたときに、許可の条件みたいなものは考えているか。

【委員】

できるだけ早く方向性を出したいと考えている。

できれば地区でまとまって同じ学校へ行くことが望ましいという話をさせていただいている。しかし、岡谷小へ通わずことが心配という保護者もいるとすれば、柔軟に対応しなければいけない。

【事務局】

全体会での報告内容について確認

現地存続、移転、統合・分散、それぞれの案に対する、委員それぞれの思いを意見として報告する。